

2018年12月吉日

各 位

株式会社淀川製鋼所
IR室PRグループ

国指定重要文化財 ヨドコウ迎賓館が2年3ヶ月ぶりにリニューアルオープン



当社は兵庫県芦屋市にフランク・ロイド・ライト設計の国指定重要文化財「ヨドコウ迎賓館」（旧山邑家住宅）を所有しており、社会貢献活動の一環として、この建物の保存と活用に取り組んでおります。

当館は国庫補助事業による保存修理工事のために2016年11月より閉館しておりましたが、このほど工事を完了し、2019年2月16日（土）より2年3ヶ月ぶりに一般公開を再開いたします。また、このたびのリニューアルオープンにあたり、イベントを下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

なお、2019年2月13日（水）13：00に、報道関係者を対象とした現地説明会を開催し、工事の概要等についてご説明いたします。（詳細は、後日、あらためてお知らせいたします）

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社淀川製鋼所 IR室PRグループ 担当 阪本・越野

住所：大阪市中央区南本町4-1-1

TEL：06-6245-9103 FAX：06-6282-9176 e-mail：info@yodoko.co.jp

以上

(別紙)

ヨドコウ迎賓館 リニューアルオープン関連イベント

- 【開催場所】 ヨドコウ迎賓館
兵庫県芦屋市山手町 3-10 (阪急芦屋川駅より、北へ徒歩約 10 分)
- 【開催期間】 2019 年 2 月 16 日(土)~5 月 6 日(月・祝)
開館時間：10:00~16:00
- 【開館日】 毎週 水・土・日曜日と祝日
※雛人形展期間に限り 毎週 火・水・金・土・日曜日と祝日
- 【料 金】 大人 500 円 (税込み) 団体 (30 名様以上) は 400 円 (税込み)
小・中・高校生 200 円 (税込み) 団体 (30 名様以上) は 100 円 (税込み)
- 【TEL・FAX】 0797-38-1720

【イベント】

(1) 保存修理工事パネル展

[期間：2019 年 2 月 16 日(土)~2 月 27 日(水)、4 月 10 日(水)~5 月 6 日(月・祝)]

保存修理工事の概要や内容などについて、写真を交えてわかりやすく解説したパネルを展示します。

(2) 雛人形展

[期間：2019 年 3 月 1 日(金)~4 月 7 日(日)]

京都の老舗「丸平大木人形店」によって、明治時代に制作された雛人形を公開する雛人形展を再開いたします。当館ゆかりの雛人形は顔・姿・衣装ともに百余年の歳月を感じさせない、時代を超えた美しさを保つ名品です。



(外観)



(車寄せ)



(応接室)



(雛人形)



(内裏雛)



(女雛)

以上

(参考資料)

【保存修理工事の概要】

当館におけるこれまでの大規模な修理工事は、1985年（昭和60年）から約3年間かけて行われた保存修理工事と、1995年（平成7年）に発生した阪神・淡路大震災に伴う災害復旧工事（1995～1998年）の計2回実施されました。今回は、それ以来の建物全体に関わる保存修理工事となりました。

今回の保存修理工事の主目的は、屋根の防水です。アスファルト防水^{※1}の標準的な耐用年数にほぼ達していることや雨水処理の構造上の問題もあり、防水層を全面改修しました。

あわせて、外壁の装飾部分（飾り石）^{※2}、大谷石の床・幅木、建具など経年変化による老朽箇所の修理も実施いたしました。

また、今後さらに建物を活用していくために、保存修理工事と並行して、手すりの設置、エアコン・コンセントの増設、建物のライトアップ用照明の再設置などを行いました^{※3}。

※1：液状の溶解アスファルトと、防水性の高いアスファルトシートを積み重ね、厚みのある防水層をつくる工法

(防水工事)



屋根の防水工事

(飾り石の補修工事)



補修後の飾り石Aタイプ

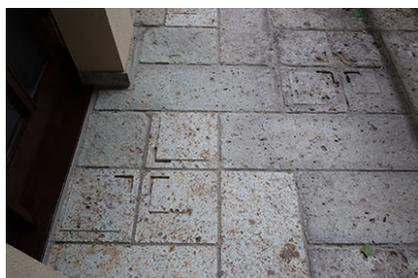


補修後の飾り石Bタイプ

※2：当館の外壁には2種類（Aタイプ・Bタイプ）の飾り石で装飾が施されています。

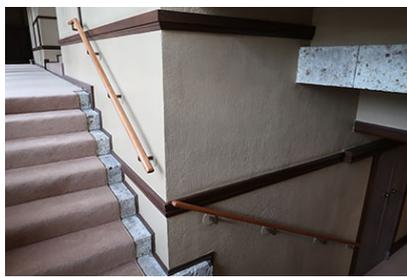
飾り石は大谷石の碎石、砂、セメントを混ぜて作られたもので、今回の工事では、耐久性を高めるために、多数のサンプルを製作して強度や表面の仕上げ方法を検討しました。

(大谷石補修工事)



敷石の補修工事

(活用工事) ※3



手すりの設置工事



建物のライトアップ用照明設置

※3：当館は細かいスキップフロアによる空間構成が特徴であるため、その空間の価値を損なわない範囲で、階段（1階から3階）に手すりを設けました。

環境に配慮したLED照明を設置し、2月16日から夜間のライトアップを実施予定です。

【ヨドコウ迎賓館の解説】（国指定重要文化財、フランク・ロイド・ライト設計）

◆建築家 フランク・ロイド・ライト（Frank Lloyd Wright）

近代建築3大巨匠の一人と称されるライトは、「有機的建築」を標榜し、自然環境と調和する建築を目指しました。

日本では帝国ホテルの設計で有名ですが、住宅建築に多くの傑作を残し、全業績は1000件以上の設計で、実建築は500件近いともいわれる多作の建築家です。その業績のほとんどは母国アメリカでのもので、現在、アメリカ以外では日本にのみ4件あり、ほぼ完全な形で残っているのは、ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）と東京・池袋にある自由学園明日館の2件だけとなっています。

代表作は、落水荘（カウフマン邸）、グッゲンハイム美術館など。

◆ヨドコウ迎賓館の来歴

山邑家住宅の設計は、灘の酒造家である八代目・山邑太左衛門からの依頼で、娘婿である星島二郎が大学時代の友人であった遠藤新を通じてライトに依頼したものです。当時ライトは帝国ホテル建築のために来日しており、遠藤新はライトのもとでホテルの建築に携わっていました。

着工はライトがアメリカに帰国した後の1923年で、実建築はライトの弟子である遠藤新と南信の手によって行われ、1924年に竣工しました。

当社は、1947年に社長邸としてこの住宅を購入し、接客・接待の場としても使用したため、後に「迎賓館」という名称にしました。その後、貸家や独身寮として使用しましたが、老朽化のため、建物を取り壊してマンションを建てる計画を立てました。1971年にこの計画が伝わると建築関係者から保存を求める声が起こり、当社はこれを受けて1972年に計画を撤回して保存を決め、1974年に重要文化財の指定を受け、調査工事・保存修理工事を経て1989年に一般公開を開始しました。

（ヨドコウ迎賓館の来歴）

| | |
|----------------|--|
| 1918（大正07）年 | 山邑家の依頼を受け基本設計ができる |
| 1923（大正12）年 | 着工 |
| 1924（大正13）年 2月 | 上棟 中頃竣工 |
| 1935（昭和10）年 | 実業家の所有となる |
| 1947（昭和22）年 9月 | 淀川製鋼所の所有となる（社長邸） |
| 1959（昭和34）年 | 貸家として使用（アメリカ人が住む） |
| 1971（昭和46）年 | 独身寮として使用 |
| 1974（昭和49）年 5月 | 国の重要文化財に指定される |
| 1981（昭和56）年 7月 | 調査工事開始 |
| 1985（昭和60）年 7月 | 保存修理工事開始、1988（昭和63）年12月完工 |
| 1989（平成元）年 6月 | 一般公開 |
| 1995（平成7）年 1月 | 阪神・淡路大震災により被害を受け、6月より調査・修理工事開始、1998（平成10）年3月完工 |
| 1998（平成10）年 5月 | 一般公開再開 |
| 2016（平成28）年10月 | 保存修理工事開始 |
| 2016（平成28）年11月 | 約2年間保存修理工事のため一時閉館 |
| 2019（平成31）年 2月 | 一般公開再開 |

【雛人形の解説】

展示する人形は、ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の建築主である八代目山邑太左衛門氏が、長女の誕生を祝って京都の老舗「丸平大木人形店」に依頼し、明治 33（1900）年から 34（1901）年の 2 年間で納められました。

「丸平大木人形店」は江戸時代の明和年間（1764～1772 年）京都に創業、以来二百有余年の歴史を持ち、その作風は写実性を基調とし、有職故実※における時代考証を重視したもので、代々京人形、雛人形の逸品として賞賛されています。（※有職故実…朝廷や武家の式礼・官職・法令などに関するきまり）また、屋号を丸屋（まるや）と称し、当主は代々大木平藏を襲名、通称「丸平」で親しまれています。「丸平大木人形店」は国内外の多くの博覧会に出展し数々の受賞歴を誇り、その作品は皇族・華族にも数多く納入されています。

今日、これらの人形が保存状態も極めて良好で、これだけ揃って残っている例は少なく、文化的にも非常に価値ある作品だといえます。

全 33 体の人形は、次の三つの人形群に分かれています。

1. 雛人形 7体の雛人形に、市松人形等の4体を添えた壇飾り雛一式
2. 花嫁人形 花嫁姿の上臈を含む5体の人形に、漆塗りの各種嫁入り道具を添えた人形群
3. 花観人形 17体の人形と桜・松等の造りものによって、花見の宴の模様を写した人形群

山邑家は享保 2（1717）年創業、約 300 年の歴史をもつ灘の酒造家で、天保 11（1840）年酒造りに適した水として有名な「灘の宮水」を発見し、また「正宗」という酒銘を最初に考案した由緒ある蔵元です。明治 17（1884）年「正宗」に櫻の字を冠して酒銘を「櫻正宗」としましたが、櫻正宗は今もその伝統を守る灘の酒銘として知られています。花嫁人形の調度品が桜の花の蒔絵で飾られているのは、そうした由来によるものでしょう。

「雛人形」の内裏雛は、高さが約 45 センチと非常に大振りで、重厚な雰囲気を感じられます。

また、一般的には黒の束帯を着用している男雛は、女雛と同様に贅沢に重ねた金襴や桜の刺繍が施された華やかな装束を纏っており、ひととき豪華な構成となっています。

「花嫁人形」「花観人形」は、どちらも衣装の美しさの特徴とした、衣装人形と呼ばれる人形の一つです。これらの人形が作られた頃、江戸末期のベストセラー小説「にせ紫田舎源氏※（にせむらさき いなかげんじ）」を題材にして、光源氏を中心とした花見の模様を一群の人形で表現し、「源氏花見の図」などと称したことがあるようですが、この「花観人形」はその光源氏を明治天皇かと推測できる人物に置き換えたバリエーションと考えられます。

※にせ紫田舎源氏＝にせの紫式部が書いた通俗的な源氏物語といった意味

これらの人形は、長女の婚家にもたらされ、受け継がれてきました。しかし、こうした貴重でかつ大量の人形を、それに相応しい方法で保存するのは個人の力では難しく限界があったため、人形にとって里帰りともなるこのヨドコウ迎賓館に戻すことを切望された結果、幸運にも当社の所有するところとなったものです。

以上